

第5学年 道徳科 教材名「手品師」(正直、誠実)

1. ねらい

- 自分自身の心に対し、まじめで正直に生きようとする心情を育てる。

2. 本時について

見通す

活動① 「誠実に生きる」とはどういう生き方なのかを考え、「誠実」という言葉の持つイメージを共有化する。

S1：真面目に生きること

S2：相手を思いやること

S3：まっすぐ生きること

取り組む

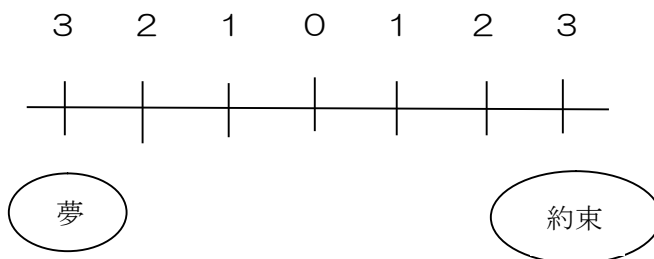
活動② 資料の範読を聞き、問題場面について考える。

(1) 約束と夢で迷う手品師にはどのような思いがあるのでしょうか。

(個人)

夢を選びたい	←→	約束を選びたい
・長年の夢だから		・男の子を悲しませたくない
・これまでの努力を無駄にしたくない		・嘘をつきたくない
・これが最後のチャンスかもしれない		・たった1人でもお客さんだから

活動③ 黒板の「心の数直線」に自分の名札をはりに行く。



振り返る

活動④ 3～4人のグループに分かれて、意見を交流する。

活動⑤ 交流により自分の意見が変わった児童は名札の位置を変える。

活動⑥ 全体で意見とその理由について交流する。

活動⑦ 問題場面について考える。

(2) 約束を選んだ手品師は後悔していないのでしょうか。(全体)

活動⑧ 「誠実に生きる」こととはどのような生き方をする事なのかワークシートに記入する。

3. 学び合いの例について

【活動③】：価値の対比の明確化】

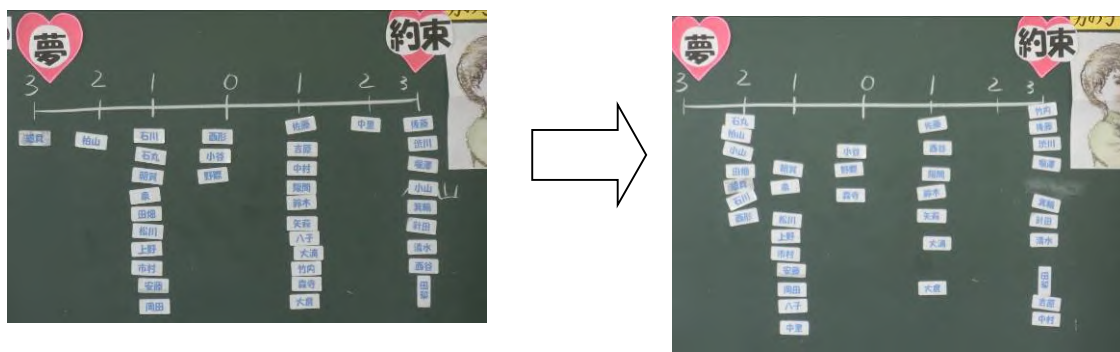
(手だて) 価値の対比を明確にして意見を出しやすくする。

「約束」と「夢」の間で揺れ動く手品師の気持ちに寄り添いながら、選んだ根拠や理由について考えを伝え合えるようにするために、その二つの価値の対比を明確に提示することで、教師が両者の意見の橋渡しをしたり、揺さぶりをかけたりしやすくなると考えた。児童の言葉にならないつぶやきや声をもれなく拾いながら、心の数直線を活用し思考を可視化しながら話し合いを進め、深めていくことができた。

【活動③】：心の数直線の活用】

(手だて) 思考の可視化を行う。

学びを深める手立ての一つとして児童の思考が見える形で表しながら話し合いを進めていくことが有効であると考えた。「心の数直線」を活用し、可視化しなおかつ数値化することでどんな意見をどのくらいの強さで抱えているのかを明確にすることができた。互いの考えを比較したり、自分と似ている意見や同じ意見を持つ人の考えの根拠や理由を聞いたりする過程で、可視化によって思考が活性化され、学びの深まりを促すことができた。「約束」と「夢」の間で揺れ動く手品師の気持ちを個人で考え、心の数直線に自分の名札を置き、その後の3~4人のグループトークの中で、考えを共有したり修正したりした際には、名札を置き換える児童もおり、思考の変容を意識しながら学ぶ姿も見ることができた。



【活動⑧】：ワークシートの記入】

(手だて) 振り返りの場面で一番考えさせたい「誠実に生きるとはどういうことか」についてワークシートに記入する。

この場面では、ただ感想を書いたりまとめをしたりするだけにとどまらず、学んだことや感じたことを自分の内面からじっくりと見つめ直し、自分の経験と関連づけて考えながら学びを深めることが大切であると考えた。十分に時間を使って振り返り、学級全体で共有することもできた。

小学校 第5学年 道徳

教材名 「手品師」

取組のワンポイントアドバイス

こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところや子供たちの変容の様子を
お伝えします!!!

初回の2組の授業では、児童の発言や、振り返りのワークシートから、資料の最後の場面の手品師の選択だけに注目してしまった傾向が強く、「自分の夢を捨てて他者に尽くすことが誠実である」と陥りやすい認識をしている児童が多かった。そこで次の授業には『「誠実に生きること」は他人のために自分を犠牲にすることなのですか』という発問を加えることにした。

1組の授業では、『「誠実に生きること」は他人のために自分を犠牲にすることなのですか』という発問を加えたこともあり、児童の発言や振り返りのワークシートから、「自分の心と向き合い自分で決断したこと」に誠実さを見いだせる児童が多かった。

「心の数直線」で思考の可視化、数値化をし、考えを伝え合ったり深めたりすることができた。名札を移動させた児童を漏らさずチェック！「考えを変えた理由」を聞くことができた。児童の言葉にならない声や思い、つぶやきを拾い、言葉にするきっかけやヒントを与えることができた。

※5年生の全学級で、それぞれ授業を実施しました。